

平成 22 年度第 8 回（92 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 23 年 2 月 15 日（火）午後 2 時から

場 所：コミュニティプラザひまわり 会議室 1

出席者：大森靖史、阿久津たか子、伊藤晃、三木克子、佐藤隆史、加藤春芳、
小林倫子、中西宣長、増田恵美子、佐藤勝栄、今瀬千佳子、鈴木晃、
齋藤徳次郎

事務局（企画課長、市民協働係長、企画課主事）

欠席者：石川由紀子、原友里恵、宮城敬子、島崎豊茂、大久保實、円城寺修、
神吉正代

<配布資料>

- 1 まちづくり提案審議 進行表
- 2 まちづくり委員会への提案内容に対する審議結果について（報告）
- 3 まちづくり委員会委員の任期について（参考）
- 4 六小・七小校区コミュニティはぐくみ円卓会議紹介資料
- 5 「まちづくりリーダー制の導入と育成を」提案者資料
- 6 まちづくりフォーラム資料
- 7 資料「防災市民組織の役割等について」

1 開 会

2 前回の確認

委員長：前回議事について何か意見はあるか。

<特になし、前回議事承認>

委員長：次に提案 No.1「子供たちにやさしい公園」の報告について何か意見はあるか。

<特になし、承認>

3 提案審議

委員長：では提案 21-9「まちづくりリーダー制の導入と育成を」の審議に入りたい。今回は提案者による提案主旨の説明を資料として配布している。前は円卓会議を広げていけばいいのではないかという話が出ていたが、私としては、円卓会議の中でリーダーの育成を行うことは無理だと思っている。今回お配りしている資料に「防災地域リーダー研修」の資料があるが、例えば防災リーダーを育てていく方法として、こういう研修を利用したほうがいいと思っている。

委員：外から見ていると、円卓会議では提案されているようなことがすでに行われているように見える。円卓会議という取組みがすでにある中、新たに何か取組みをはじめめる必要があるのか。

委員長：円卓会議は、少し大きな井戸端会議だと思ってもらいたい。井戸端会議なので、リーダーがいて何かをひっぱっていくような場ではない。

委員：円卓会議は地域コミュニティの母体のような存在にはならないのか。

委員：防災については市で情報を持っており、計画をつくっている。その計画とは別に、市民が勝手に動いてしまっているのかという問題はある。

事務局：市の地域防災計画を策定して実施する清瀬市防災会議条例というものが、計画の策定はされている。

委員：市の方で計画があるなら、まずその計画を市民に知らせることからはじめるべきではないか。

委員：災害時の避難場所などが入った地図等は、民生委員が高齢者に配布している。

委員：防災計画の一本化についての意見として、以前、市の防災安全課に二次避難所等の質問をした中で、障害を持つ方の避難などは福祉課と連携があるかを聞いた所、その時点では課のつながりはないとのことだった。その他のいくつかの事例の中でも私の知る範囲では、防災の一本化がなされているとは言い難いと感じている。行政が一本化した防災計画を市民に伝えて、その情報を受ける市民は、普段から横のつながりをつけておくようにしておくことが災害時に大切ではないかと思う。

委員：では、やはり円卓会議を活用すべきだと思う。まず円卓会議から、先ほどの防災計画を広めていくのがいいのではないか。

委員：六小の円卓会議がうまくいかなかった時期は、会議をうまくまとめてもらうよう市から委員に打診してくるということがあった。だからリ

ーダーが明確に決まっていないう円卓会議でも、一定の時期は、軸になる人を必要としていたということはある。

委員：この提案については、円卓会議に参加したことがある委員と、参加していなかつた委員で認識の違いがあるようだ。

委員：行政の側からこのような制度をつくっても、必要と感じている人が多くなければ市民は動かないのではないか。

委員：この提案を実現することは難しいと思う。委員会としても提言して後のことは知らないというのではよくない。

委員長：昨年度の自転車の提言では、この提案よりももっと実現が難しいことを提言していた。できるかできないかではなく、必要か必要でないかで提言をするか決めるべきなのではないか。

委員：提言をするかどうかは、委員会である程度実現できるかできないかで判断してもいいと思う。委員の皆さんが迷っているのは、提案にあるようなことは理想であるが、具体的にどう取り組んでいくべきかがわからないからではないか。

委員：提案にあるようなことは、まちづくりの原点として必要なことだと思う。どう進めていくかは、行政と考えていけばよい。今の時点で進め方がはっきりしなくても、根本的なこととして必要であるという認識があるのなら、提言してみてもいいのではないか。

委員：リーダーを選んだとしても、基本的にボランティアでやってもらうのだとしたら、リーダーとしての責任を要求することは難しいのではないか。

委員：先日参加した防災研修では、小金井市は町毎にブロック長・班長・役員を決め、3、40人の体制で負担にならないやりかたを構築してきたと聞いた。この体制をつくるのにも何年もかかったそうなので、今ここでリーダー制は無理だというのではなく、とりあえず提言してみればいいのではないか。

委員：円卓会議のような取組みをすでにやっている地域では、こういう制度を導入することもできると思うが、何もない地域ではこういう制度を導入しても続かないと思う。

委員：では、まず第一段階として円卓会議の取組みをさらに活性化させて、リーダー的な存在を決められるようになったら、そのノウハウを他の地域に広げるといいうやり方はどうか。この提案からそこまで読み取っていいのかという問題もあるが。

委員長：提案者の了解を得れば、そういうやり方で提言にもっていてもいいと思う。

委員長：円卓会議が広まった後の第二段階として、横のつながりを強化すると

という言い方なら提言はありかもしれない。では提言にあげるかどうか
多数決をとりたい。

<賛成者多数のため、提言することに決定>

4 その他

今年度まちづくりフォーラムについては、5月15日（日）に開催する事に
決定。4月の会議は19日（火）、5月の会議は10日（火）に開催で決定。